

7/31 赤旗

# コロナ禍 社会的養護出身 困窮若者に支援

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。脆弱な社会保障制度のもと、これまでも困窮していた社会的弱者の暮らしは、コロナ禍によって、劣悪さが一気に顕在化しました。



支援者に渡すオリジナルのクリアファイルを手にする菊池さん

児童養護施設など社会的養護出身の若者の状況は、とりわけ深刻です。「4人に1人が仕事を失い、6割は仕事が減って収入減となっています」  
24%が「失業」  
「仕事減62%」  
児童養護施設や里親家庭などを巣立った若者にも、「とても驚いた半面、やはりとも思いました。こう語るのは同団体代表の菊池真梨香さん（33）。児童福祉法では18歳未満が児童、民法で成人は20歳から。法整備が脆弱で、18歳から20歳までの2年間は、施設出身の若者がすくすく育たれてきました。まさにその通りでした。声に怒りがこもります。実はこの調査、同団体

## 15万人アクセス■寄付500万円超

聞き取りで寄せられた若者の声

【今の気持ち】  
「困った時に頼れる相手がいないでキツイ」（20歳女性）、「苦しいです」（19歳男性）、「先が見えない」（28歳男性）、「親はいないし、施設の先生たちは優しいけど忙しいのを知ってるから自分から頼れない」（20歳女性）  
【行政支援に求めること】  
「施設出身者の家賃補助がほしい」（23歳男性）、「弱い立場にある若者を差別することなく助けてほしい」（23歳女性）、「マスクじゃなくて給付金を早く届けてほしい」（20歳男性）、「継続的な支援があればいいのに」（21歳男性）、「事務手続きが多すぎる。もっと簡略して」（23歳男性）

「電話対応は、社会的養護のボランティア歴が少なくとも2年以上ある信頼のおけるスタッフ5人が担当しました。30、40分話し込む子もいましたが、『資金を送ってくれたらいいな』、話を聞いてくれて、うれしかった」と言われると、やっ

が実施した生活困窮の若者に支援金を送る「若者」

### 「いまが大変」 すぐ支給開始

クラウドファンディングをやろう！。一気に動き出しました。

菊池さんが紹介した4月28日付ブログ「国から死ねと言われています」から

助けてください。食事は一日、一食。もうすぐ貯金が底をつきる…。私は幼い頃から施設に住んでました。

この春、施設を巣立って、18歳になってアパートで一人暮らしを始めました。アパートの初期費用をはじめとする家賃、学費、健康保険、生活費…。全てをバイト代で賄わなければなりません。

しかし、コロナの大流行。バイトのシフトはカットされ、収入はほとんど無くなり、新たにバイトを見つけないと毎日面接に行きますが、どこも採用してくれません。国が新たに発表した奨学金も、私の学校は対象外なので、受けることができませんでした。

区役所に相談しても、「私どもの方では支援することができません」と門前払い。（生活保護も児童福祉も私の状況に当てはまらない）学費はおろか、最低限の生活をするためのお金もない状況です。

食事は一日、一食。水道代の節約のため、濡れタオルで身体を拭くだけ。この春巣立った施設の職員にLINEしても返ってきません。頼れる親族など、元からいません。国から死ねと言われている気持ちでいっぱいです。

基金のきっかけは4月中旬、マスターピースに寄せられたメール。今年3月に施設を出たばかりの学生（18）からのSNSでした。新生活を始め、いきなりのコロナ。アルバイトはなくなり生活できなくなるといいます。菊池さんは、緊急小口資金や生活保護などの制度を紹介しました。

ところが後日、いろいろ理由をつけられて断られた。との連絡が入ります。「国から死ねと言われている気持ちです」との学生のごときは、「こんなことがあって長いのかな」と絶句。

怒ったのは菊池さんだけではありませんでした。菊池さんがやりとりをまとめたブログ（別項）には、1週間で約15万人がアクセス。68人から約10万円の寄付がありました。「こんな若者がいっぱいいるだろう。ク

クラウドファンディングをやろう！。一気に動き出しました。当初目標の100万円は初日（5月9日）、開始から8時間で達成してしまいました。第2次目標の200万円も1日半で達成するほどの勢いで、最終日の6月21日には第5次目標の500万円を超過達成しました。

お金が手元に届くのは7月末でしたが、「若者たちは今、大変なんです。待ってられない」と、融資者の協力も得て、直ちに支給を開始。